

## 女子短大生の心理的特徴におよぼす食生活の影響(第3報)

-食卓を巡る家族関係と欲求不満行動との関連性-

○近藤淑子 石村哲代 (四條畷学園短大)

**目的** 近年の家庭における食卓の個食化や食事の簡略化傾向は、家族関係の希薄化を招き、こども達の心身発達や人間関係に望ましくない影響を与える要因の一つとなっているとする研究成果が一般の注目を集めている。これに対してこうした食環境の中で青年期に達した学生達の食卓の家族関係の実態や精神面などへの影響についての研究は、未だ十分になされているとは言い難い。そこで本報では、前報に引き続き女子短大生の欲求不満行動に食生活のどのような側面がより深く関わっているかを明らかにするための研究の一環として、食卓を巡る家族関係との関連性を中心に検討を試みることにした。

**方法** 調査期間と調査対象は前報と同じで、食卓を巡る家族関係実態調査(10問より構成。回答の“はい”を2、“どちらでもない”を1、“いいえ”を0として得点化)を実施し、厚生省健康の指標策定委員会案による食物摂取状況調査結果より算出した栄養素摂取量や自己評価による健康状態、およびP-Fスタディ(絵画欲求不満テスト)より得た欲求不満による攻撃行動との関連性について統計的分析を行った。

**結果** ①食卓を巡る家族関係を示す得点の平均値と標準偏差に基づき14点以上を高得点群、10点以下を低得点群に分類し、両者間の平均値の差の検定を行った。②栄養素摂取量では、高得点群の方が低得点群よりも有意にエネルギー、たんぱく質、脂質の摂取量が多かった。③自己評価による健康状態については、高得点群の方が低得点群よりも有意に良好であった。④欲求不満行動では、高得点群は低得点群に比べて有意に自責的反応を示すことを認めた。1) 日本家政学会第52回研究発表要旨集, 162(2000)